

美幌総合計画策定

『びほろ』みらいまちづくり会議

第7期

美幌町総合計画

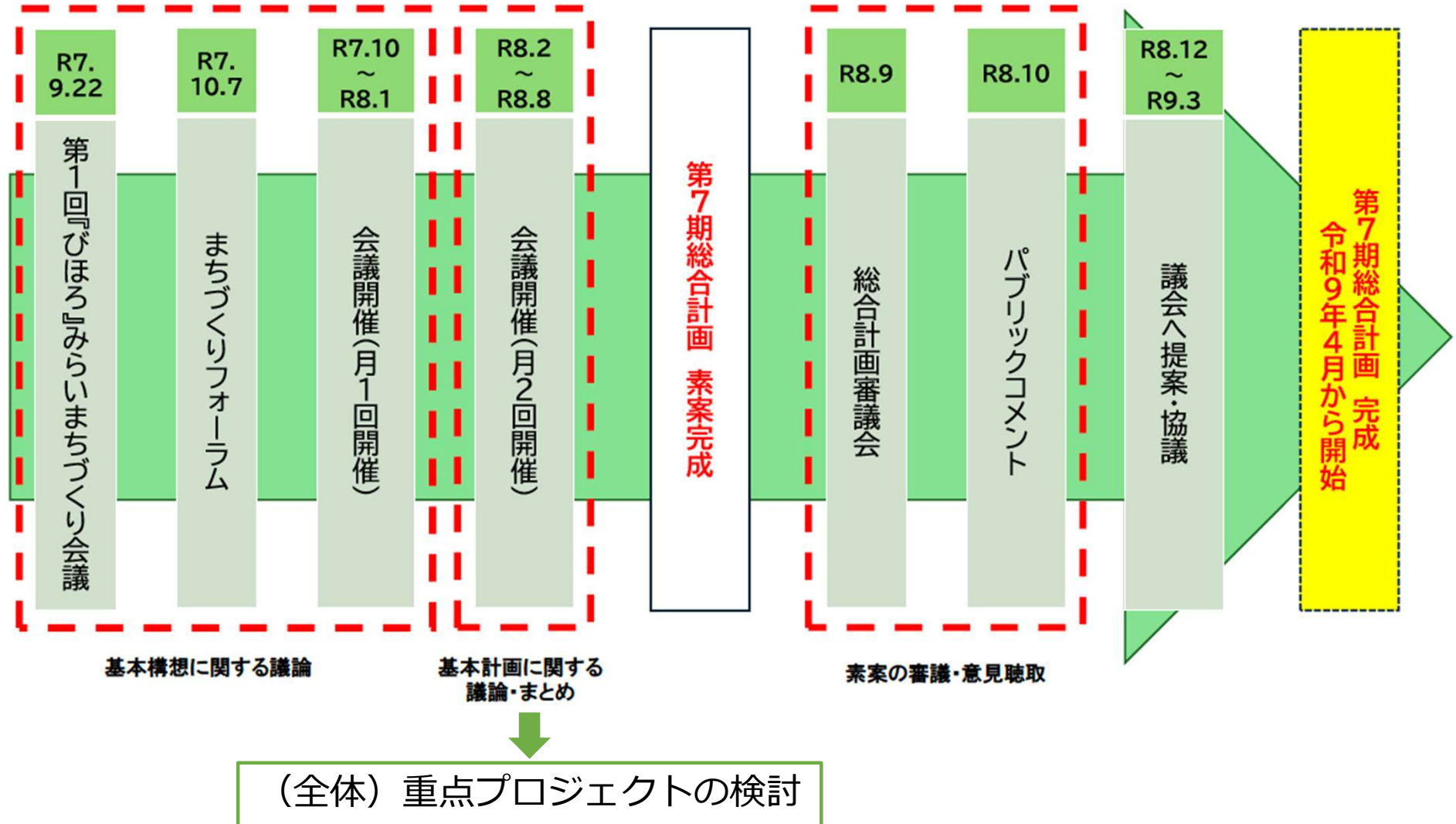
策定へ向けて 2027→2038

2026年5月14日

1. 策定経過の確認

策定スケジュール

現在地



2. 前回の振り返り

第11回全体会議（4/23）

開催日時:2026年4月23日（木）18時30分～20時00分

場所:保健福祉総合センター しゃきっとプラザ

第11回 『びほろ』みらいまちづくり会議では、第7期美幌町総合計画の基本計画の柱となる6つの重点プロジェクトについて、各部会に分かれて意見交換を行いました。

また、重点プロジェクトを進めるの町民のアクションのアイデアについても意見交換を行いました。

アイデアとしては、すでに取り組まれている活動が多数紹介されたほか、新たなアイデアも多く出されました。



■ 主な意見～重点プロジェクトの推進に向けたアクション

＜地域・コミュニティ関係＞

●すでに町民で取り組んでいるアクション

- ・ 自治会に加入し、地域のつながりを支えている(町民生活)
- ・ **有償ボランティアとして自治会活動**を担っている(町民生活)
- ・ 除雪支援や声かけなど、災害時も見据えた共助の取り組みをしている(町民生活)
- ・ 子どもが自由に遊べる**playparkイベント**を実施している(福祉)
- ・ ひまわり植栽イベントを通じて**コミュニティスクールの活動**を広げている(福祉)
- ・ 障がいのある子どもや家族が集う療育祭を開催している(福祉)

<地域・コミュニティ関係>

●これから取り組みたいアクション

- ・ 地域活動をゆるやかにつなぐリーダー・音頭取りを育てる(総務)
- ・ 義務感なく気軽に立ち寄れる**コミュニティの場**をつくる(総務)
- ・ 場所を固定せず移動しながら**集まれる場**を設ける・美幌町活力共創事業補助金の活用も(総務)
- ・ まちづくりテーマごとに**町民が意見を出せる会議を定期開催**する(建設)
- ・ まちづくりテーマごとに**パブコメや町民会議を定期的**に開催する(建設)
- ・ **高校生が出したアイデアをまちづくりに反映**できる仕組みをつくる(建設)
- ・ **スクエアタウン構想の検討・推進に町民として参画**する(町民生活)
- ・ **美幌町出身者のネットワーク**をつくる(教育)



<イベント・にぎわいづくり関係>

●すでに町民で取り組んでいるアクション

- ・ 地域住民・関係団体と連携した防犯・交通安全活動をしている(町民生活)
- ・ 秋祭り・和牛祭りなど地域の祭りに参加し、にぎわいを支えている(建設)



●これから取り組みたいアクション

- ・ 毎月・毎週どこかでイベントを開催し、日常的なにぎわいをつくる(建設)
- ・ 国道を閉鎖して中心市街地を舞台にしたイベントを実施する(建設)
- ・ 冬まつりの雪像づくりや盆踊りなど、季節のイベントを充実させる(建設)
- ・ 外国人住民も交えたビールパーティーなど交流イベントを開く(教育)
- ・ 高校生が企画するイベントを町民・大人がサポートする仕組みをつくる(建設)
- ・ 年齢や立場を問わず参加しやすいイベントの仕組みをつくる(建設)
- ・ 近隣町も巻き込んだ世代を超えた合同運動会を開催する(建設)
- ・ 音楽などを活用した参加しやすいイベントで人を集める(総務)

<農業や観光等の産業関係>

● すでに町民で取り組んでいるアクション

- ・ 美幌産農産物や地域資源を**美幌ブランド**として町内外に発信している(経済)
- ・ みどりの村を拠点に**農業体験・キャンプ**を受け入れている(経済)
- ・ **学芸員が解説しながら案内する博物館ツアー**を実施している(経済)

● これから取り組みたいアクション

- ・ **朝どれアスパラ**を農家で収穫してそのまま食べる**朝ツアー**をつくる(経済)
- ・ 農家・観光・商業をつなぐ**観光マネジメント組織(DMO的な存在)**を形成する(経済)
- ・ ツアー造成や農家・施設の**コーディネートを担う機能**をつくる(経済)
- ・ 美幌産アスパラを町民が手軽に買える**販売の仕組み**をつくる(経済)

<デジタル・情報発信・防災関係>

●すでに町民で取り組んでいるアクション

- ・ 広報誌の連載を通じて総合計画の策定状況を町民に周知している(総務)

●これから取り組みたいアクション

- ・ デジタル技術をイベントや日常の場で草の根的に浸透させる(総務)
- ・ 楽しめる防災イベントへの参加を通じて防災力を高める(総務)
- ・ 若者が高齢者にスマホ・LINEの使い方を教える世代間交流の場をつくる(建設)

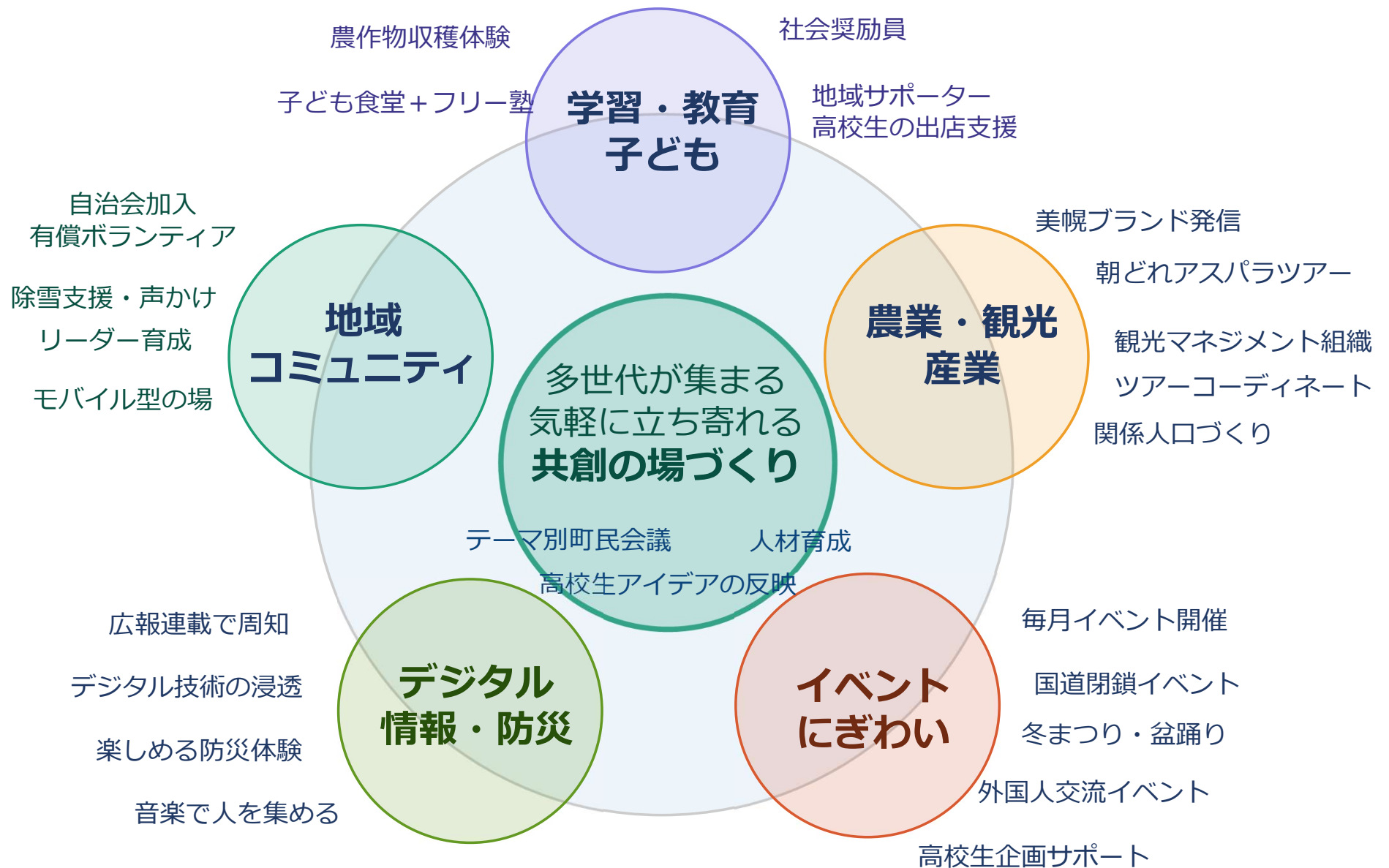


<学習・教育・子ども関係>

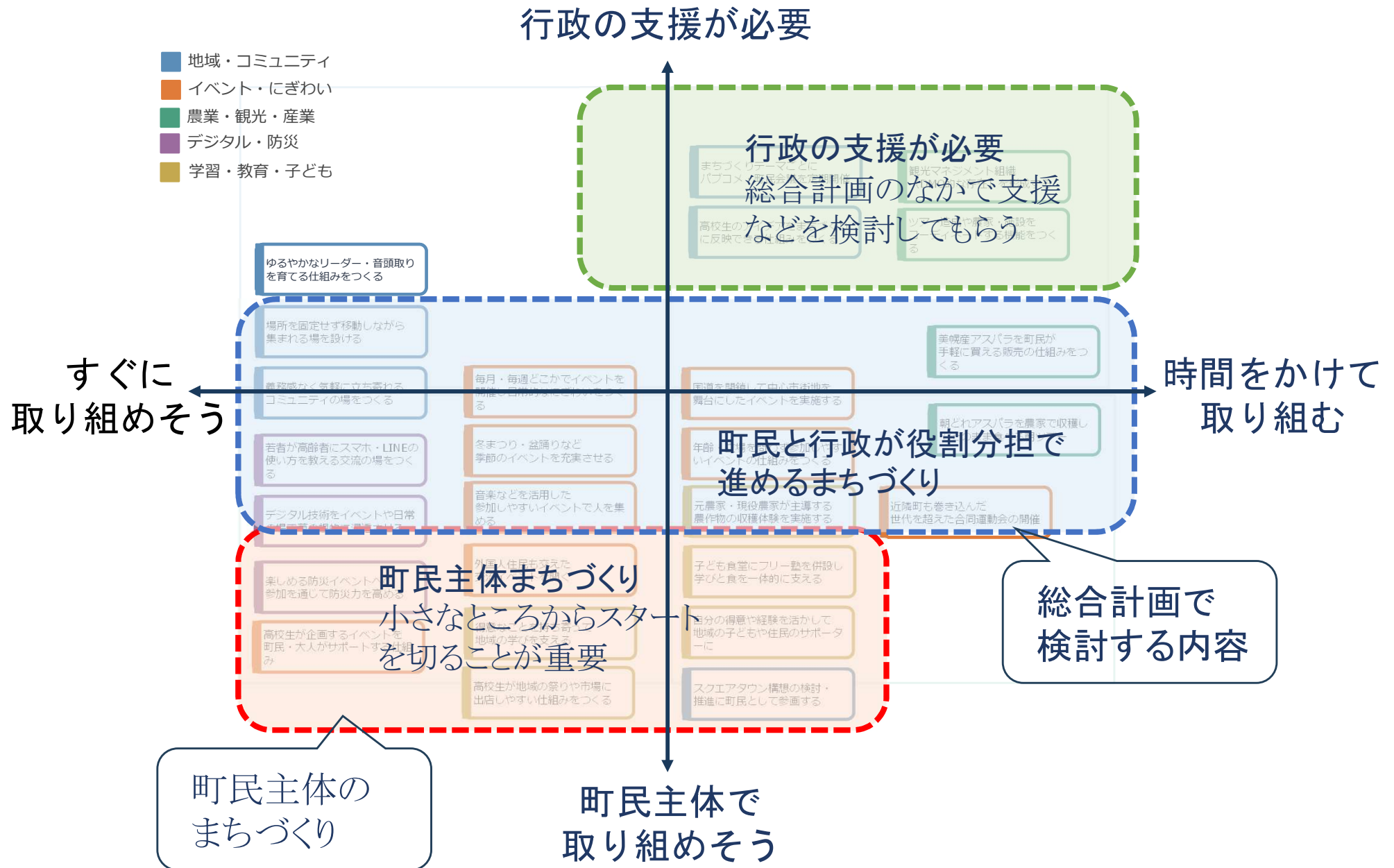
●これから取り組みたいアクション

- ・ 元農家や現役農家が主導して**農作物の収穫体験**を実施する(教育)
- ・ 得意なことを持ち寄って地域の学びを支える(教育)
- ・ 自分の得意や経験を活かして地域の子どもや**住民のサポーター**になる(教育)
- ・ **子ども食堂にフリー塾**を併設し、学びと食を一体的に支える(教育)
- ・ **高校生**が地域の祭りや市場に出店しやすい仕組みをつくる(教育)
- ・ 地元企業において、**高校生のインターン受入**を強化する(教育)





前回出された これから取り組みたいアクション



3. 話題提供

町民主体のまちづくりについて

(1) 美幌町総合計画(素案)

将来像

- 大地の恵みのなか、人が育ち、未来をつくる、
誇れるまちびほろ

- 美幌町が培ってきた大地や水などといった地域資源は他の自治体にはない強みである。学びや地域活動を通じて人が育ち、産業によって未来がつけられ、地域に誇りを持つことができる暮らしの実現により、美幌町らしい価値を次世代へ確実につなぐことを示す。

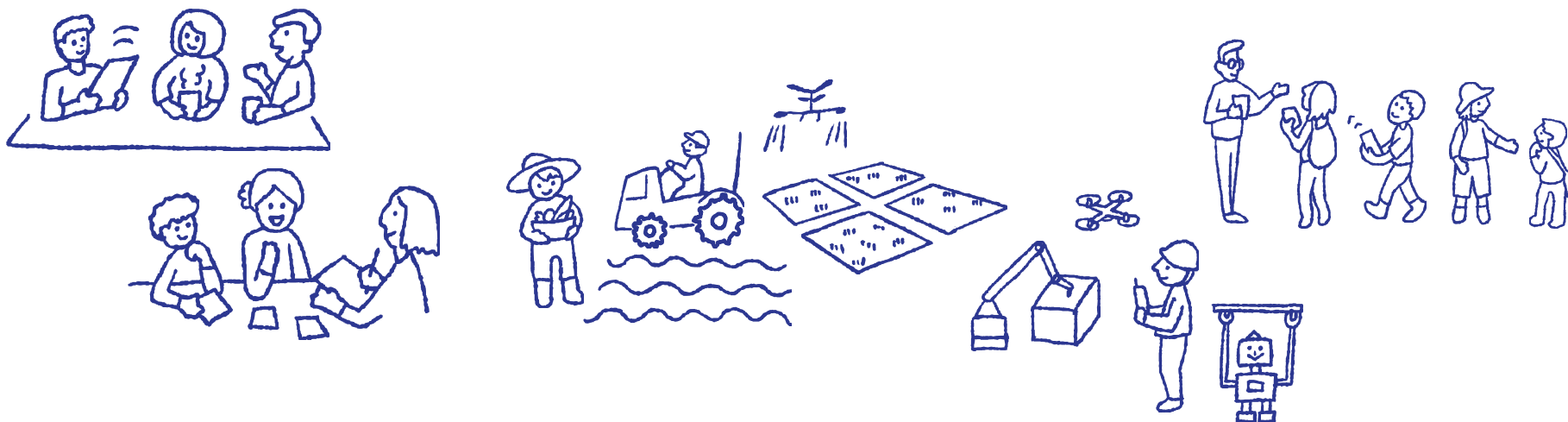
町民と行政で将来像を共有して
みんなでまちづくりを進めよう



基本理念

- 将来像を実現するために、町民・事業者・団体・行政が共通して大切にする価値観や姿勢を示すものである。
- 『びほろ』みらいまちづくり会議では、「行政任せではなく、町民が主体的に関わることの必要性」「できる人が、できることに関わる仕組みが必要」といった意見が出されており、課題からはデジタル化・AIの活用の視点、多様性、豊かな暮らしを実現するまちづくりの視点なども重要と考えられる。

町民を主体としたまちづくり
先進技術を活用したまちづくり
多様な人々が暮らしやすいまちづくり

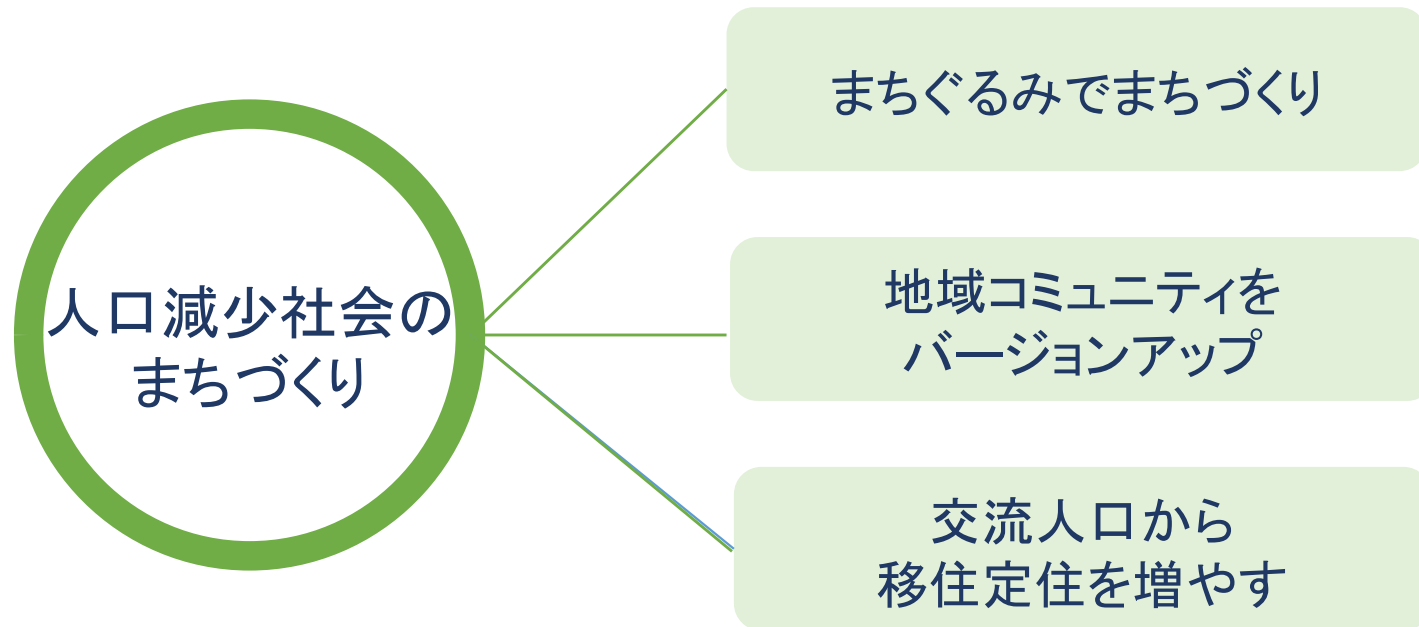


基本目標 行政進めるまちづくり目標

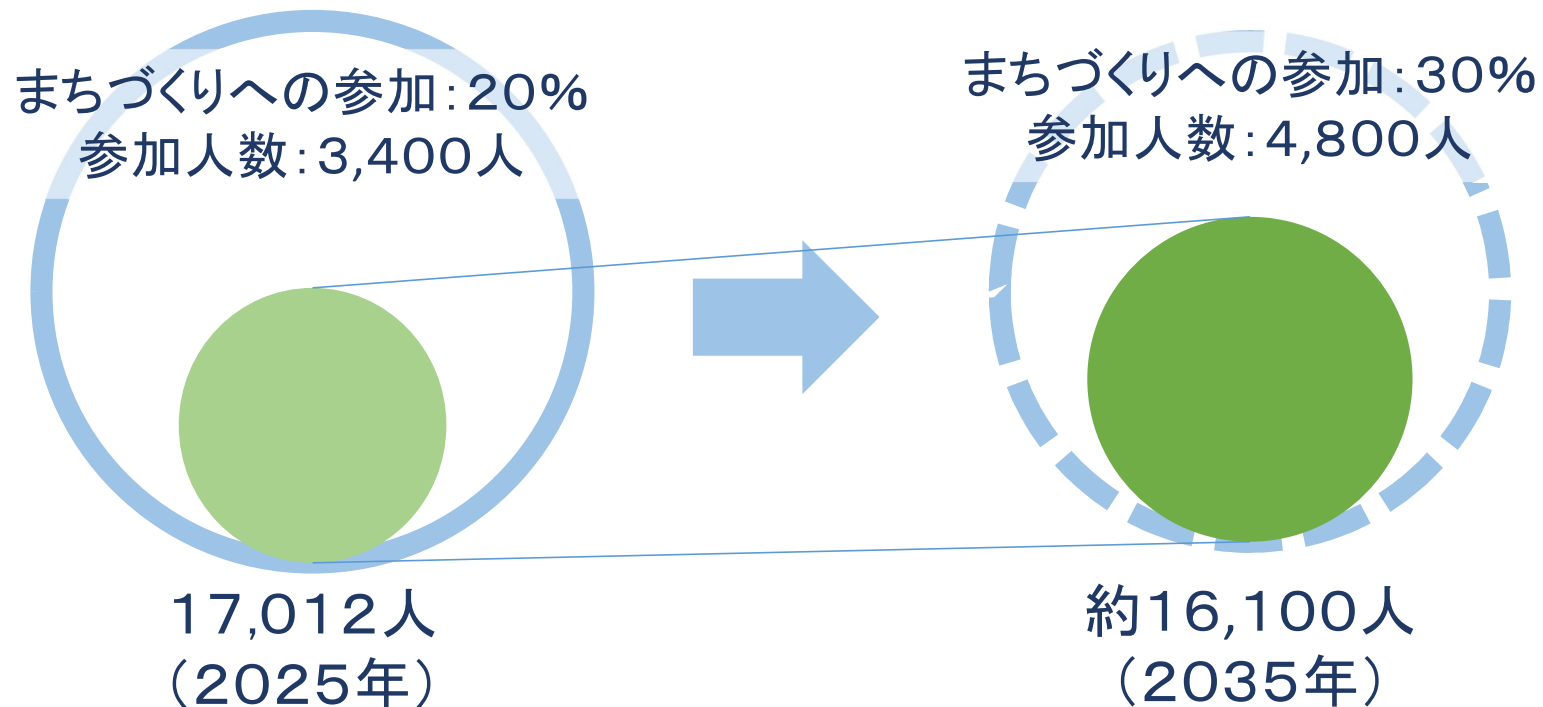
- 安 時代の変化のなか、地域力を活かした共創による安心なまち
- 紡 日々の暮らしやすさを紡ぎ、だれもが住み続けられるまち
- 協 日常のつながりを協働で育て、福祉につなげるあたたかなまち
- 産 農・観・商が連動し、新たな「産」が生まれ続ける活力あるまち
- 環 暮らしと環境が支え合うコンパクトで持続可能なまち
- 輝 多様な学びで個性が輝き、未来に羽ばたく力を育むまち

(2) 人口減少社会のまちづくりのポイント

2025年10月7日 まちづくりフォーラムより



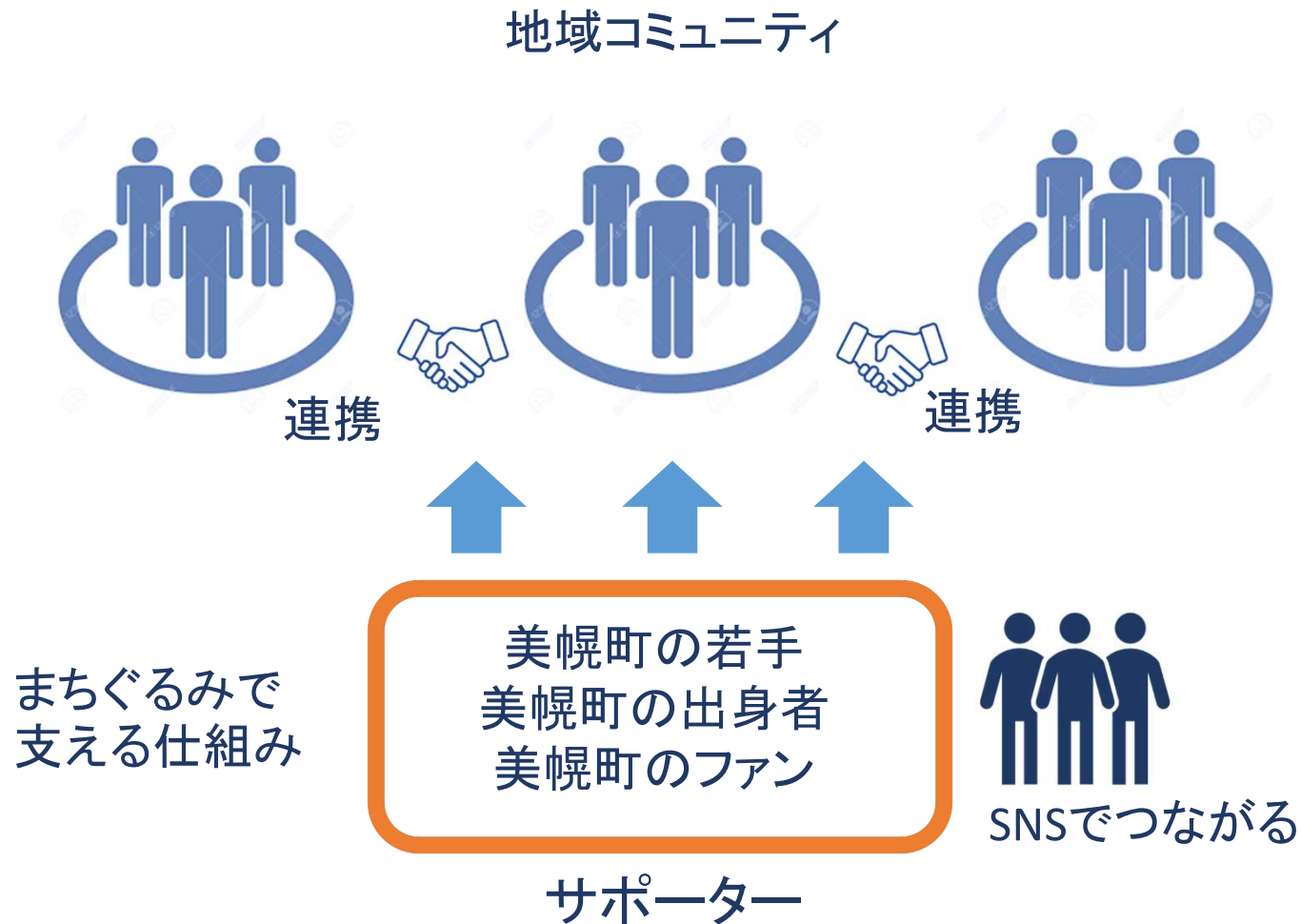
(3) まちづくりに参加する「ひと」と「機会」を増やす



- アクティブシニアのまちづくりの参画
- 中学生・高校生のまちづくりの参画
- 現役世代も1人2役でまちづくり

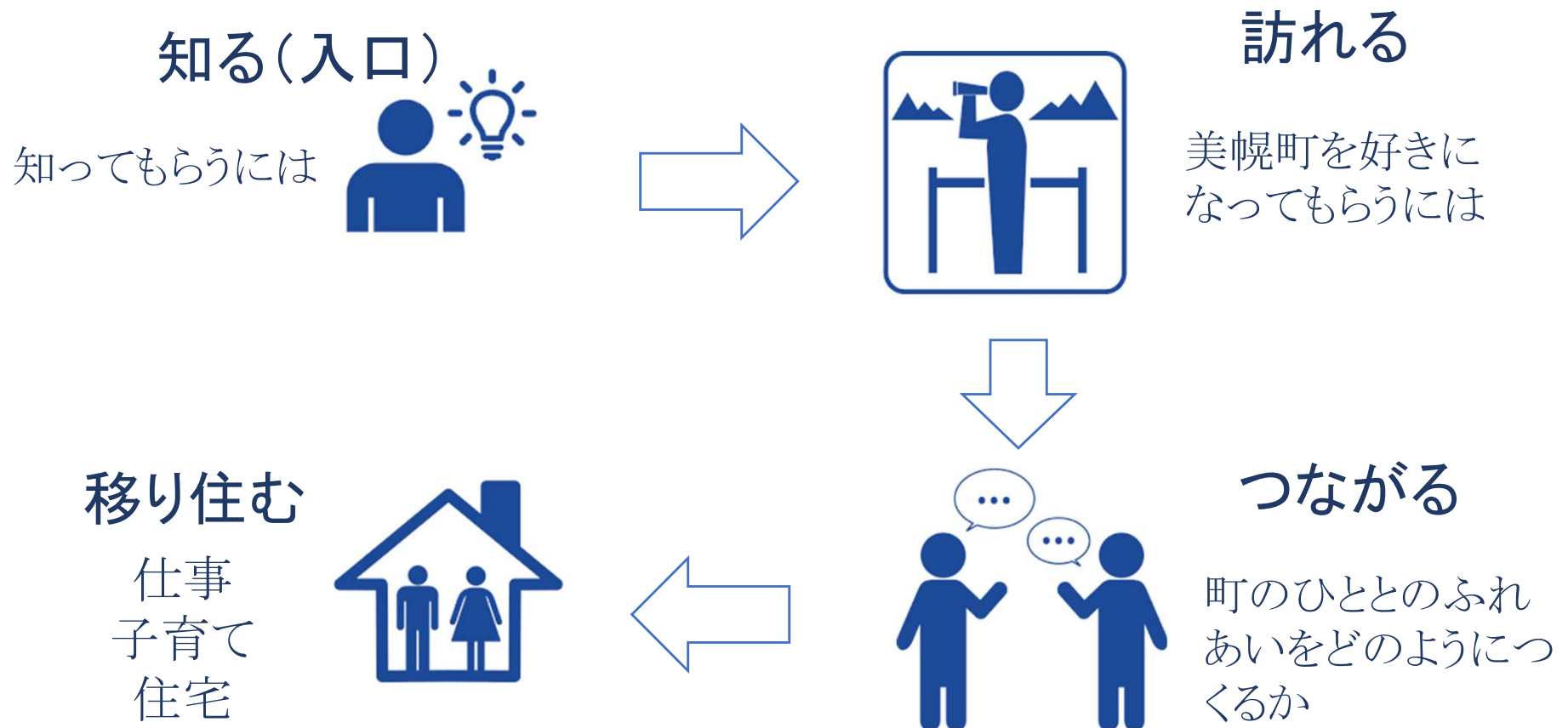
(4) 地域コミュニティ(自治会)もまちぐるみで支え合う

自治会も高齢化・世帯数が減少で担い手不足



(5) 観光・交流・関係・移住のサイクル

人口減少のなか移住者を増やすことも大切になります
観光から始まる交流、関係、移住のサイクルをつくる



ワークショップ

今日のワークショップ(1)

①自分の興味のあるテーマのグループに参加します。

お手数ですが、
興味のあるテーマのテーブルに
移動ください。



今日のワークショップ(2)

テーマ

これから取り組みたいアイデアから
『町民主体のまちづくりのアクション』を考える

- 参加したテーマのアクションについて、前回の意見をもとに町民まちづくりアクションを話し合います。
- 「すでに取り組んでいるアクション」を広げたり、「これから取り組みたいアクション」を進めるためのアイデア、新たなアイデアも出してください。
- 出されたアイデアを「行政と役割分担をしながら取り組むまちづくりアクション」と「町民主体で取り組むまちづくりのアクション」に整理してください。

町民主体のまちづくり(検討事項)

将来像に向けて町民主体で進めるまちづくりの取り組みです。



高齢者による食堂(うきはの宝)



軒先店舗イベント(札幌市)



図書館漫画喫茶(十勝 清水町)



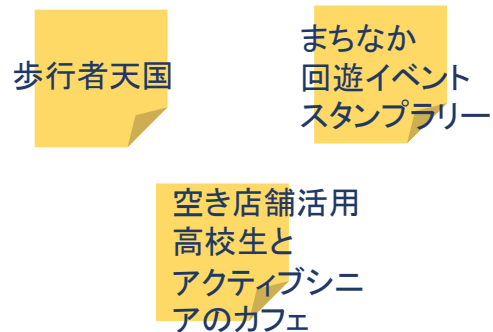
「もりのタネ」コミュニティの場づくり(恵庭市)

にぎわいグループ

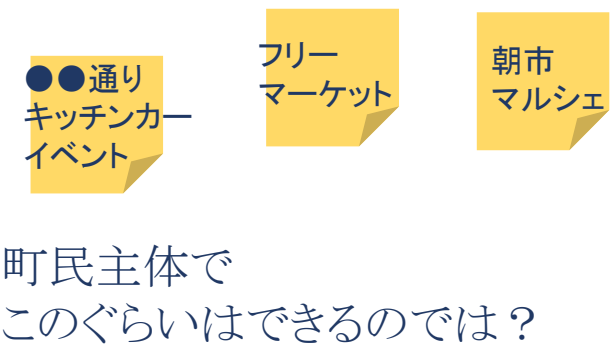
【取り組むべきアクション】



行政と役割分担をしながら取り組むまちづくりアクション



町民主体で取り組むまちづくりアクション



グループでの話し合いのルール

①発言は1回、3分まで

長い話は印象に残りません

②人の意見・アイデアを否定しないようにしましょう

③今日はたくさんのアイデアを出すことが目的です

グループ発表

行政と役割分担をしながら取り組むまちづくりアクション
町民主体で取り組むまちづくりアクション

各テーマの参考事例

1. 共創の場づくり

●コミュニティの場づくり・意見交換の場

- 気軽に訪れてまちのことを語れる場づくり
- 定期的に集まり話をする

●出されたアイデアを試してみる

- 楽しみながら試してみる

■総合計画のワークショップから出されたアイデア 図書館利活用(マンガとカフェ)イベントのお試し(清水町)



●地区の若手でつくるカフェトーク(藤野まちづくりLABO・札幌市)



カフェトークからスノーシューツアーやまち歩きが自主的に始まっています

●若者が交流しながら地域コミュニティのサポートを考える (マチトモLABO・札幌市)



●若手の定期的な集まりから生まれたにぎわいイベント(清里町)



キッドパス(クレヨン)



ボードゲームコーナ



テレビゲームコーナ(eスポーツ)



キッズスペース

2. 学校・教育・子どもグループの事例

- 子どもたちのふるさと教育(子ども美幌探検隊)
 - ・遊び感覚で美幌のまちの歴史や魅力を学ぶ
- 子ども美幌のまちの魅力ツアー造成
 - ・子どもが観光客に紹介したい美幌の散策コース
- 子ども農業体験
 - ・美幌の農業を学ぶ、農業体験
- 子ども食堂・地域食堂
 - ・多世代交流をつくる

●南幌町子ども探検隊(ポロレンジャー)



●会館を改装してカフェ・子ども食堂の実施(札幌市)

- 「単独の町内会組織」から、隣接する町内会との連携、地域にあるカフェ、地域内外のNPO、子育て団体学生サークル・・・といった“ゆるやかなネットワークをつくり、地域コミュニティを運営



3. 農業・観光・産業

●町民有料観光ガイドによるツアー

- ・ 町民がガイドとなり美幌のまちの魅力を案内する。町民だから知っている話。

●農泊事業・農業体験ツアー

- ・ 農家に宿泊して農業体験を楽しむ

●美幌町の美しい農村風景・サイクリングツアー

- ・ 美幌町の美しい農村風景を自転車で楽しみ、美味しい農産物を食べる

■まちの資源発掘とまち歩きコース・ガイド育成



●農業体験(ワイナリー)ツアー(浦臼町)



●田園サイクリングツアー

ガイド付きの付加価値の高い観光を創出する戦略



●古民家(空き家)のリノベーションした農泊事業(石狩市)



Before



After



4. イベント・にぎわい

- 公共空間を活用したにぎわいイベント
 - ・ 歩行天国・モルック・キッチンカーなど
- 冬のスノーキャンドルイベント
 - ・ 冬のイベントとしてのスノーキャンドル
- 空き施設・空き店舗の活用



高校生をリーダーとしたスノーキャンドル(蘭越町)



札幌市宮の沢地区方向者天国イベント

●ゲストハウス(WATARA)の整備(網走市)

- 商店街にある店舗の上の未利用の居住スペースなどを活用してゲストハウスを整備。(令和2年度 商店街活性化・観光消費創出事業)
- コロナ禍でも国内旅行者の予約が入っている。



網走まちなかゲストハウス



●まちなかコワーキングスペース(NASCITA)の整備(網走市)



- 商店街の空き店舗を活用して、市民が集まることができるコワーキングスペースを整備
2022年10月オープン
- 内閣府のデジタル田園都市構想事業を活用して整備



5. デジタル・情報・防災

●自治会などのデジタル化

- ・ LINEによるつながりの強化、電子回覧板など

●SNSによる情報発信

- ・ Instagramによる町民による情報発信

●高齢者施設・福祉施設などの防災訓練の実施

■介護施設の災害時の訓練(札幌市)



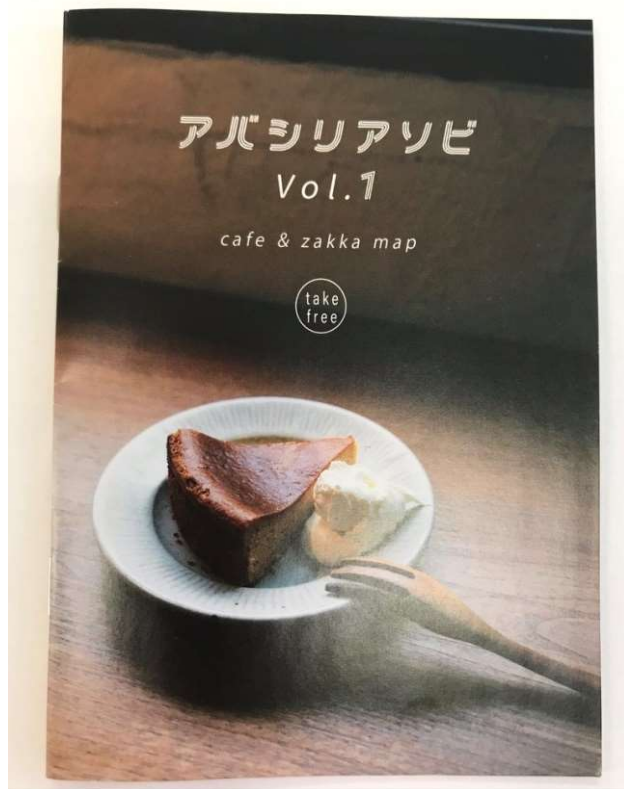
●LINEグループを活用した自治会のコミュニケーション

- 役員間では、LINEグループで情報共有や合意形成を行います。
- 役員間の連絡の手間や役員会の回数を減らすことができます。
- LINEグループで役員の負担が軽減することで、現役世代が参加しやすい町内会運営につなげることが大切です。



●市民がつくったまちの情報冊子(網走市)

- まちづくりセミナーを通して知り合った市民やカフェオーナーのメンバーが、「アバシリアソビ」という冊子を制作したり、コミュニティFM番組をスタートしている。
- まちづくり会社とともに支援しています。



●Instagramによる自治会の情報発信

- 町内会・自治会の活動を写真や動画で発信します。



6. 地域コミュニティ

●自治会サポーター制度

- ・若い世代の関心が高いハロウィンイベントなどに参画

●自治会を支援する若者チーム

- ・自治会を運営する全町的なチーム

●自治会館の利活用

- ・自治会館カフェや居酒屋

●子育て世代支援

- ・子育て世帯と自治会のアクティブシニア
(ベテランお母さん)のマッチング
による子育てサポート

■子育て世代とベテラン お母さんをつなぐ(南幌町)



■子育て世代の関心が高いハロウィンイベント(札幌市)



●高校生サポーターが企画から参画した町内会イベント(札幌市)



●高校生による除雪ボランティア(札幌市)



●町内会館を居酒屋

- 役員の担い手不足や町内会行事に対する参加者の固定化が課題だった。
- 町内会館での居酒屋がスタート。
- 大学生なども手伝いに来てくれ、町内会に関わるきっかけになった。
- 年に6回、奇数月の第3土曜日に開催している。
- 賃貸住宅やマンションの居住者も数多く参加しており、そこから町内会活動をサポートしてくれるメンバーも増えている。
- 町内会の役員と女性部が中心となって運営している。

